

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)

群馬県前橋市元総社町七三-15

TEL 027-2555-3434

FAX 027-2555-3435

http://www.neues-asahi.jp

ノイエス周辺の木々も芽吹きはじめ春の花々も咲き始めています。県内外で開催されている展覧会も多く、出来るだけ見て回るようにしています。講演会を聞きに行ったり映画なども見に行ったりと・・・歩いて、見て、話してといった毎日を過ごしています。

ノイエスでの企画展では、在廊している作家との会話も楽しく近作のモチーフについて、また画材や技法など幅広い内容を知ることが出来ます。そして、現在の画壇の様子や海外の情報までも知ることが出来、大変興味深いです。

ノイエスでの企画展は開催期間九日間、前後搬入、搬出を加えると十日から十一日間を作品と向き合い、作家と共有出来る時間が持てます。そして展覧会以外の衣食住に関することなども話します。多くの作家が来廊して下さるので、久しぶりにお会いしてゆっくり話しをする機会もあり、来廊された方々も楽しまれているようです。

「ノイエスだより」も報道関係や作家、お客様に海外も含め毎月七〇〇通以上を郵送しており、いろいろなご意見もいただいています。そして、コミュニケーションの場として心地よい空間になっています。ノイエスでは、二月と十一月に「ふる本市」を開催しています。

現在でも一部に古本のコーナーを設けています。特に二〇〇冊以上の中から手軽に読める書籍約三〇〇冊をご用意しています。昨年、テレビで「校閲ガール」というドラマが放映されました。

校閲とは、文書や原稿などを読み、内容の正誤や適否を確認し、内容の矛盾や表現の誤り、事実関係の誤り、原稿の内容に誤りがないかを確かめる仕事のことです。一冊の本づくりには何度かの校閲がされます。一冊の本が出来上がるまでは多くの有能な編集者が関わっています。縁あって大手出版社の編集者と同席することもあり、幅広い知識と人付き合いの方法、そして酒の強さに驚かされました。

文芸誌「文藝」の編集長を長年されていた寺田博氏が書かれた「昼間の酒宴」の後書に「文芸編集者の仕事の四分の三は水面下に隠れていて、水面上に姿を現しているのは四分の一に過ぎない、とよく言われることだが、私もまったく同感である。」とあります。

作家と対面している時の緊張感とワクワク感は何なのか・・・とよく思います。図書館に並ぶ個人全集を前にして肉声を、姿を、思い浮かべられる幸せな感情は一瞬でも作家と対面した時の幸せ感と恐ろしさが共存する複雑な宝のようなものです。

(武藤)

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

第3回 草木染手織り展

— 伊丹公子と織りびと達 —

会期 四月七日(金)～十日(月)

午前十時～午後五時(最終日は午後四時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

新井勝巳 版画展

〈企画〉

会期 四月十三日(木)～十九日(水)

午前十時～午後五時三十分(最終日は午後五時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

二〇一〇年にノイエス朝日で「版画と油彩小品による新井勝巳展」を開催しました。独特の色彩と造形で不思議な世界を展開し、多くの画家仲間をはじめ来廊された方々にも好評でした。今回、交友を長年温めてきた画家仲間が力になり二〇一五年に逝去された新井勝巳氏の版画作品を展示致します。是非、この機会に「新井勝巳の版画」の世界をご高覧下さい。

第20回 樺澤健治作陶展

会期 四月二十一日(金)～二十七日(木)

午前十時三十分～午後七時(最終日は午後五時)

*通常開廊時間とは異なりますので、ご注意ください。

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

*展覧会会期中以外は、休廊しています。展覧会についての詳細は会期中にお電話下さい。

〈展覧会予告〉

愛すべき天才画家

村上肥出夫展

〈企画〉

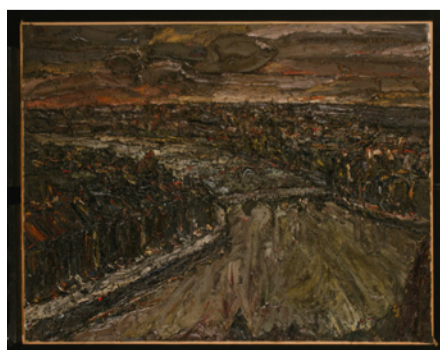
会期 六月二十四日(土)～七月二日(日)

午前十時～午後五時三十分(最終日は午後五時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

厚塗りで絵具の盛り上がったマチエールで衝撃的なデビューを飾り、新聞などでも話題になった「村上肥出夫」の作品を展示します。

昨年、東御市梅野記念絵画館で大作を中心の作品を拝見しました。アトリエで描き終わったばかりのような画面に心奪われました。是非、ご高覧下さい。



今朝、出勤する時間になり、出かけようとしたらNHK昭和の選抜 東京大空襲が生んだ悲劇の傑作 書家・井上有一「憶横川国民学校」が始まり、慌てて録画を始めました。井上有一の作品は、三十数年前から見えています。いつも見ても「書」という概念から飛び出しているような表現に驚かされ、さらに書かれた文字性に対しての作家の思いが伝わってきます。「貧」や「花」などの漢字一文字に込めた作品が初めの作品との出会いでしたが、その後「東京大空襲」「憶横川国民学校」を見ることになりました。

書家の岡部蒼風や新井狼子から若い頃の井上有一について聞くことができましたが、以前、前橋で井上有一一展をした時に画廊中央のソファに横になり寝入っている姿が印象的に残っています。

「東京大空襲」は、群馬県立近代美術館に収蔵されていますので、ご覧になる機会もあると思います。その時は見逃さないでご覧になって下さい。卒業式のために連れてきた幼き生徒たち八人を戦火で亡くした有一の叫びが聞こえてくるようです。